

幸福駅「再生プロジェクト」

鹿島建設が整備

公募で決定 花と樹木で演出へ

帯広市が計画する旧幸福駅の「再生プロジェクト」の受託業者が、建設業大手の鹿島建設北海道支店（札幌）に決定した。同社の改修テーマは、写真映えする

風景の創出と、ガーデン作りが盛んな北海道をイメージした花と樹木による演出など。昔ながらの駅舎の雰囲気は、古民家や現駅舎の使用可能な木材を用いて維持する。

プロジェクトは全国に公募し、2事業者から応募が

あった。18日の幸福駅再生プロジェクト検討委員会（委員長・阿部信一帯広市商工観光部長）で事業内容の企画提案が行われ、選定した。

同支店は、駅舎の昔ながらの風合いの維持や、花を活用した生け垣の設置、「恋人の聖地」にふさわしいハート形の葉を付けるカツラの植樹などを提案した。

「駅舎の安全確保と趣を残した改修」「ガーデンウエディングができるチャペル」など、検討委が条件としていた整備方法ともおおむね合致した。検討委は「毎年10万人以上が訪れる貴重な観光資源。より多くの人に親しまれる施設になれば」としている。

改修工事は9月にも着工、11月のオープンを目指す。（伊藤亮太）